

「新人目線」の用語解説

語句よみ

第250号



日興アセットマネジメントの新人。営業推進部門に配属され、投信や経済について勉強中。

今回のテーマ 世界中が注目する米大統領選挙

米大統領選挙の行方に世界中の注目が集まっています。今回は、米大統領選挙の仕組みのほか、「もしトラ」を考える上でも注目すべき、今後の選挙戦のポイントなどについてご紹介します。

1. 米大統領選挙の仕組み

2024年は、世界最大の経済大国である米国で4年に一度の大統領選挙が行なわれます。一般の有権者が投票を行なう本選挙の投票日は、「11月の第1月曜日の翌日の火曜日」に実施されることが法律で決まっており、今回は11月5日となります。

大統領選挙では、11月の本選挙に至るまでに、①予備選挙・党員集会や②各党の全国大会などのプロセスがあります。①予備選挙・党員集会では、党員らによる投票や話し合いによって、「代議員」が選出されます。なお、「代議員」は、どの候補者を支持するかを事前に表明し、その後の党の全国大会で候補者に投票を行ないます。②全国大会では、①によって選出された全ての「代議員」のうち過半数の支持を獲得した候補者が、正式な大統領候補として指名されます。なお、指名された大統領候補の演説が行なわれることなどから、同大会に対する有権者の関心は高く、これ以降、11月の本選挙に向けた選挙活動が本格的に始まります。

一般の有権者が投票を行なう本選挙では、選挙人(どの候補者に投票するかを事前に宣言した、各州の代表者)が選出される仕組みとなっており、最終的には、その選出された選挙人が改めて投票

ステップアップ

「予備選挙」では、代議員の選出にあたり、通常の選挙と同じく、投票所などで有権者による無記名での投票が行なわれます。一方、「党員集会」では、地元の公民館などで党員が議論をしながら、候補者の絞り込みを行ないます。



(次のページへ続きます)

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

を行なうことにより、次期大統領が正式に決定されます。

2. 「もしトラ」

日本の金融市場では、共和党のトランプ氏が大統領に返り咲くことへの懸念を意味した「もしトラ(もしトランプ氏が勝利したら)」という用語が良く聞かれるようになりました。トランプ氏は、共和党の大統領候補指名争いの初戦で2位以下に大差をつけて勝利し、その後も各州・地域で勝利を続け、各党の候補者選びのヤマ場とされる、3月5日のスーパーチューズデーにおいても圧勝しました。そして、3月12日には、トランプ氏と民主党のバイデン氏がいずれも各党の全国大会(共和党:7月15～18日、民主党:8月19～22日)で正式に大統領候補として指名されることが固まり、前回と同様、今回の本選挙も両氏の対決となることが確定しました。

「もしトラ」を考える上でも注目すべき、今後の選挙戦のポイントとしては、トランプ氏が抱える複数の裁判の動向や副大統領候補の選定、大統領候補による討論会が挙げられます。

まず、裁判については、巨額の費用を負担する必要があるほか、被告として出廷を求められる可能性もあり、トランプ氏の選挙活動への足かせとなることが予想されます。また、仮に本選挙前に有罪が確定した場合には、トランプ陣営の課題である無党派層の取り込みにも影響が出るとみられます。次に、万が一大統領に何かあった場合にその職務を引き継ぐ副大統領の候補選定(民主党は現職のハリス氏)については、トランプ氏も高齢であることから、これまで以上に高い注目が集まると予想されます。最後に、大統領候補による討論会については、政策論だけでなく、表情や身振り手振り、相手候補者の発言に対する反応など多様な観点でその資質が評価されます。両氏とも失言などが目立つ傾向にあることから、9月16日、10月1日、10月9日に開催予定の討論会で、どのようなやり取りがなされるのか、有権者の関心を惹きつけると考えられます。

81歳という高齢に対する不安や高インフレ率、移民政策などへの不満を背景にバイデン氏の支持率は伸び悩んでおり、最近では「もしトラ」の確度を高めた「ほぼトラ(ほぼトランプ氏が勝利するのではないか)」という用語も使われるようになりました。こうした中、11月の本選挙に向けて、両氏の言動に対する関心がより高まると予想されます。

「もしトラ」を考える上でも、トランプ氏が抱える複数の裁判の動向や副大統領候補の選定、大統領候補による討論会の内容などにも今後注目したいですね。

ステップアップ

米大統領選挙において、同じ候補者での再対決となるのは1956年以来、約68年ぶりです。1952年と1956年の大統領選挙で共和党のアイゼンハワー氏と民主党のステューベンソン氏が対決し、いずれもアイゼンハワー氏が勝利しました。

